

1984年 1月29日

(1) 備陽史探訪

備陽史探訪

NO.17

昨年の行事報告

二月以降行事案内

会員近況

買正



発行

備陽史探訪の会
(事務局)
〒721 福山市西深津町
7丁目2番7号
TEL 21-3940
神谷和孝方

今年度の本会のあり方について、会の真価が問われる年になります。

会長 神谷和孝

新年、あけましておめでとう御座居ます。会の発展のために今年度もどうぞよろしく、お願いいたします。

さて、会の新年度も、一月一日なる評議員同志で決意を新らたに

となっており、今年度の紙面の都合で、具体的な計画は

本会の歩む方向について、昨年十二月十八日に評議会を催し、

の反省を厳びしく行ない、今年度の計画を色々話し合いました。

昨年、昨年の活動をふりかえって、みれば多くの御意見をいただき、

時に、昨年一年間の本会の発展は、まさに飛躍的な発展をとげ、

の点でも、百二十名を教える事が、

出来ました。それだけに今年度は、

くお願いいたします。

(係より、紙面を限らせていただきました)

る	成	を	▼	た	共	て	▼	え	予	部	百	が	▼	の	の	の	の	の	の	
年	さ	小	ま	こ	に	表	有	例	想	連	人	年	会	二	三	九	一	二	年	備
で	れ	り	も	思	回	を	る	外	外	の	の	度	員	等	行	の	一	二	陽	
あ	た	か	の	わ	づ	を	と	の	の	内	々	年	年	の	す	例	九	八	史	
る	え	え	め	れ	つ	御	談	増	加	々	の	当	の	中	る	会	三	三	探	
	本	々	上	る	実	覧	話	加	で	の	目	初	増	心	。 談	日	の	の	訪	
	年	々	以	。 本	行	い	会	。 目	。 標	目	十	人	加	に	話	の	会	昨	の	
	は	々	上	会	し	つ	に	標	。 目	。 標	十	十	。 加	の	会	員	年	一	年	
	協	の	本	の	け	い	の	は	。 目	。 十	人	。 加	活	月	総	一	月	七	度	
	力	果	の	の	れ	お	行	十	。 十	余	余	。 加	状	回	会	五	日	の	活	
	。	を	目	目	わ	わ	状	分	余	。 余	。 加	況	の	の	に	於	て	決	動	
		も	標	標	か	か	況	。 分	。 余	。 余	。 加	に	。 一	の	於	て	定	さ	目	
		こ	は	は	り	り	は	。 分	。 余	。 余	。 加	。 一	。 一	。 一	於	て	さ	れ	標	
		に	ほ	ほ	と	思	下	。 分	。 余	。 余	。 加	。 一	。 一	。 一	於	て	。 一	。 一	は	
		更	こ	こ	う	が	表	。 分	。 余	。 余	。 加	。 一	。 一	。 一	於	て	。 一	。 一	た	
		に	ん	ん	が	而	の	。 分	。 余	。 余	。 加	。 一	。 一	。 一	於	て	。 一	。 一	本	
		飛	と	と	面	会	速	。 分	。 余	。 余	。 加	。 一	。 一	。 一	於	て	。 一	。 一	会	
		躍	達	達	れ		り	。 分	。 余	。 余	。 加	。 一	。 一	。 一	於	て	。 一	。 一	。 一	
		す	れ	れ				。 分	。 余	。 余	。 加	。 一	。 一	。 一	於	て	。 一	。 一	。 一	

副会長 田中義之

（あかり）

1983年度 例会一覧表

月	日	テ - マ	担当者	備考	参加数
1	23	鬼ノ城見学 (岡山県総社)	七森義人		11
2	20	朝鮮式山城(常城)探策	桑田英夫		12
3	21	尾道の古寺を訪ねて	種本実		40
4	3	神石町の古跡探訪	武鳥種一	マイクバス	40
(特)	5	親子古墳めぐり	佐藤一夫(講師)		126
6	26	本郷の古代と中世	山口哲品	大型バス	50
7	24	矢掛本陣と吉備郡東備町	阿部厚子	マイクバス	50
8		休			
9	18	竹原市の史跡と古い街並探訪	末森清彦	大型バス	50
(特)	10	出雲路一泊旅行		大型バス	27
(特)	11	瀬戸内村上水軍遺跡めぐり		フェリー	190
12	11	吉備路風土記の丘古墳めぐり	古墳部会	大型バス	50

※(特) は「特別例会」

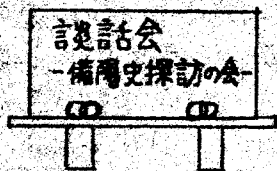


一編集部より

6月例会で見学した吉備郡常城の常城石櫓は地元の八幡宮より復元(厚根部会長)と報告をうけて、7月23日探訪された。

1983年度談話会一覧表

回	月	日	テーマ	講師	場所	備考
3	1	16	歴史と伝説	平井隆夫	湯殿	無料
4	2	13	中世備後国人衆の動向	藤井高一郎	〃	〃
5	3	6	吉備の中の備南	佐藤一夫	〃	〃
6	4	24	福山城の建物に就いて	松本房治	月見橋	有料
7	6	12	福山の幕末維新史について	森本繁	湯殿	〃
8	7	10	宮座について	山上久夫	〃	〃
9	8	21	備後地方の面大寺律宗	堀勝義	〃	〃
10	9	11	芸備地方に於ける加世歌	青野春水	〃	〃
11	10	23	宮内院に就いて	田口義之	市民会館	〃
12	11	20	さつはてのシルクロード	森下秀文	湯殿	〃
13	12	4	阿部正弘とその時代	鐘屋光世	〃	〃



古墳研究部会'83の総括
 古墳研究部会は六月十一日の
 会則改正により成立した機関と
 会を開くにあたり、部会員は十
 会の探訪の会々員で積極的な意
 欲のある青年の毎月第二、四水曜日
 九時より青年の家で行う。条件に
 七月から始めました。部会では
 に古墳の流をふまえて、個人
 の歴史の流をふまえて、個人
 の古墳を学習し、よまう。七世
 毎回の資料を中心に、弥生時代
 紀元前概略を押し、さきまに
 かして、概略を押し、さきまに
 まで、概略を押し、さきまに
 として、概略を押し、さきまに
 まとめる。なお、資料提示は、
 形をとる。また、資料提示は、
 十人を超え、資料提示は、
 が各人の力をこめて、資料提示は、
 年かけて、各人の力をこめて、資料提示は、

が、わすか半年で古墳時代がわかれれば、学者はいうなくなるのです。から、部会員の主体的学習態度が不可欠です。とは言え、部会員が欠席もせず、楽しく学習できたことが最大の成果であると総括します。

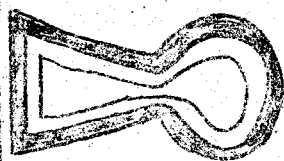
(附録)

八十四年は、芦田川流域の古墳を学習します。これに参加すれば、当地方の古墳資料はほとんど入手できる。を目標に資料を作成、学習したいと思いますので、学習意欲のある方のみ参加してください。のみとします。

文責

古墳研究部会長
佐藤一夫

258.1.19 脱稿



十二月例会報告

編集部

古備風土記の丘古墳めぐり

十二月十一日八時半、駒裏を約五十分の参加者を載せたバスは吉備路をめぐり、美しきガイド嬢が同伴なので、声はほんと聞かれまい。この点、執事部には反省を求めたい。さてバスは国道313号線へ出て、本日の講師佐藤氏より旧山陽道沿いの遺跡の説明を聞き、井原から総社へ向う。説明の合間に有義な質問も飛び交い、講師も多少説明のべすが、乱れたようだった。時間に余裕があったので、黒宮大塚を見学する。作山古墳には、ほぼ予定の時刻に到着し、後円部より登る。頂には説明の札があり、整備されたことである。次に角力取山

1984年1月29日

(5) 備陽史探訪

古墳へ足を運ぶ。頂には大きな松が枝を伸している。その後備中国分寺跡に徒歩とバスで向う。付近の農家の庭には実を付けた柿の木が国分寺の塔と共に風情をかもしだす。カラー写真でみた美しい春の吉備路が目ぶたに浮び

春をこがれる吉備の里。

昼食の後こうもり塚に着くと岡大の考古学部の遺跡巡りに出会う。その後郷土館で吉備の遺跡から出土した文化財を見学し、備中国分尼寺跡に寄り、バスで造山古墳へ向う。前方部の石段を登ると神社があり境内に石棺がある。耕地整理の際近くで出土したものである。後内部はかっついても畑だ。たきうだが草木で荒れ放題となっていた。最後に近くの千足古墳を一つ見学する。石室は浸水してまだ発掘

されていないうだ。吉備王国の人々の安らかな眠りを祈り迎えるバスを待つ。帰りのバスの中では全員が本日の感想を話し、有意義だった。本年最後の例会を締めくくった。バスはいつの間にか夕闇の師走の街に帰り、「お疲れさまでした」というが、イド嬢の声をハートで受け、妻子が待つ食卓へと家路を急いだ。

伝言板



◎ 毎回好評の宴華レポートは覆面氏の都合により今回は休稿します。

読者の皆様にくれぐれもよろしく。この伝言がありました。

楽しかった忘年会

十二月十八日十八時より良縁閣にて約三十名の参加者で楽しく過した。二次、三次会へと有志の親睦の輪は広がり来年への夢を語り合った。

一月例会報告
蛇円山登頂記

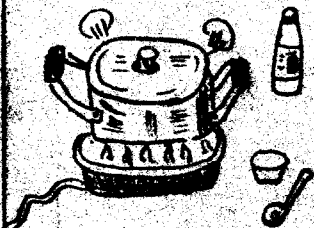
編集部

一月例会は蛇円山山頂でおでんを食べよう、というプランが年末から立案された。準備の都合から今回は広く参加を募集せず、小人数で実行することになった。

一月二十二日快晴のもと、十四人のメンバーで九時出発。足はマイクロボスと、前日迄主として高橋さんが準備された食料品その他を積んだ乗用車一台。駅家町服部に三十分で着。ここでマイクロボスを帰し、徒歩と車で山頂をめざす。ところ、山頂迄四キロの立て札を過ぎてまもなく先日の大雪により積雪が車の進行を妨げ、やむなく車を置いて荷物を分散し、全員が歩いて登る事態となった。頂上迄約二時間半。すぐおでんの

汁をぬくめだし、一時間後待望のおでん鍋に皆群がる。二つ目の鍋が底をみせる頃、にどうにか一息ついて、それぞれに景色を楽しむ余裕ができた。限下には服部の大池とそれに続く雨木、本郷の谷とその中を走る出雲街道、天文三年(一五三三年)毛利氏と宮氏との戦いの場となった泉山城等々が広がる。山頂は一面雪景色で時おり風が秋に來てみた、この声を残して、三時前下山の途につく。山頂で白菜の積り物や椅子や杓の世話をし、下さった管理人さんや、荷物を運んでくれた地元の方々に心から感謝しつつ服部の地を後にした。

山頂の風雪に舞う鍋の湯気



わか町 日本鋼管 ともにも
その一 鋼管町・引野町②
種本実

二十余年余り前の鋼管町は漁貝類
の豊富な遠浅の海であった。バス
道路が海との境であり、遠くは四
国迄見遠せた日もあった。作業
る。埋立て工事が始ると一面作
船が集り、夜は船の灯がまぶしい
程だった。地の人々は話してくれ
受けたのは漁業を営んでいく人々
であった。漁業補償は市の負担で
あり、水谷、福山、引野、大津野
といった漁協組合から鞆、尾道、
笠岡の漁協へ対象は拡大した。
例えば37年には深安漁協に2億
万円、水谷漁協に6300万円、支
てい、高卒の初任給が一千万円
時代である。約8億8000万円で
漁協組合に約8億8000万円で

た。当時五年間で漁場を失った沿岸
漁民は県内で約2000人とされてい
引野町の深安漁協80人は37年秋に解
散した。その内の一人ノリ養殖業の
Aさんは数百万円の補償金を元に土
地を買い、福山市農協の引野町ハッ
サクの奨励方針にのりみかん畑を軌
道にのせている。漁業補償の一部と
して、転業就職の斡旋を保障されたも
の、中高年者にとつて転業への道
は、険しく、多くの漁民は兼業だ
農業に従事せざるをえなかった。
現在鋼管の総合事務所がある附近
には29年に設置された自衛隊福山駐
屯地の主として結核患者を対象とし
た10万㎡の自衛隊病院があった。戦前
は航空隊の基地であった所もある。
隣の広大水畜産学部の跡地7万㎡と共
に鋼管に払い下げとなり、病院は兵
庫の伊丹駐屯地に総工費3億5800万
円で鋼管が建設することになった。

1984年1月29日

(8) 備陽史探訪

この為、駐七部隊が福山に設置さ
 れた時隊の要請で施設を自己負担
 し売店を開いた業者は福山市へ補
 償を求めた。
 鋼管の建設工事には多くの災害
 も伴った。38年7月27日早朝には
 労働者49人が乗った6トンの小舟
 が沈没し死者10人の犠牲者を出し
 た。また車や電話の少い時代の二
 とで、自衛隊のジブアで負傷者を
 運んだり、ヘリコプターによる救
 助活動が行なわれたり、大変な騒
 ぎだ。たそうだ。工事現場には常
 時2000人の労働者が働いており、宿
 舎と現場を結ぶ連絡舟はかなり無
 理な運行をしていったようだ。
 た。現場ではさまざまな職種があ
 った。例えば北木島や、宇治島(走島沖
 宇治島は石材の採掘により全島民
 が立ちのいた)海底を掘り起こす

アリストマン式しゅんせつ船等々。
 海底の土砂をくみ出すポンプ船のあ
 る船長さんは、長年外国航路の船に
 乗っていたが家族と長い間別れるの
 が辛く、工事中は一定の場所に置き
 付かれるような工場が建設されるの
 の後どのようないまま全国を回るの
 か知らないと目をみはると話してい
 る。

現場の海底から39年10月に5000年前
 の釣り針が原形のままみつかり、当
 時広大分校附属高校教諭の村上正名
 先生が鑑定したところ、獣骨でつく
 った縄文中期のものであることが分
 った。その他、旧陸軍の高射砲の薬
 キョウヤや弾丸等も海底の土砂から発
 見されている。

(以下次号に続く)

※引用資料

前号と同じ

へQとAコーナー
法成寺城(大嶮城)に就いて。

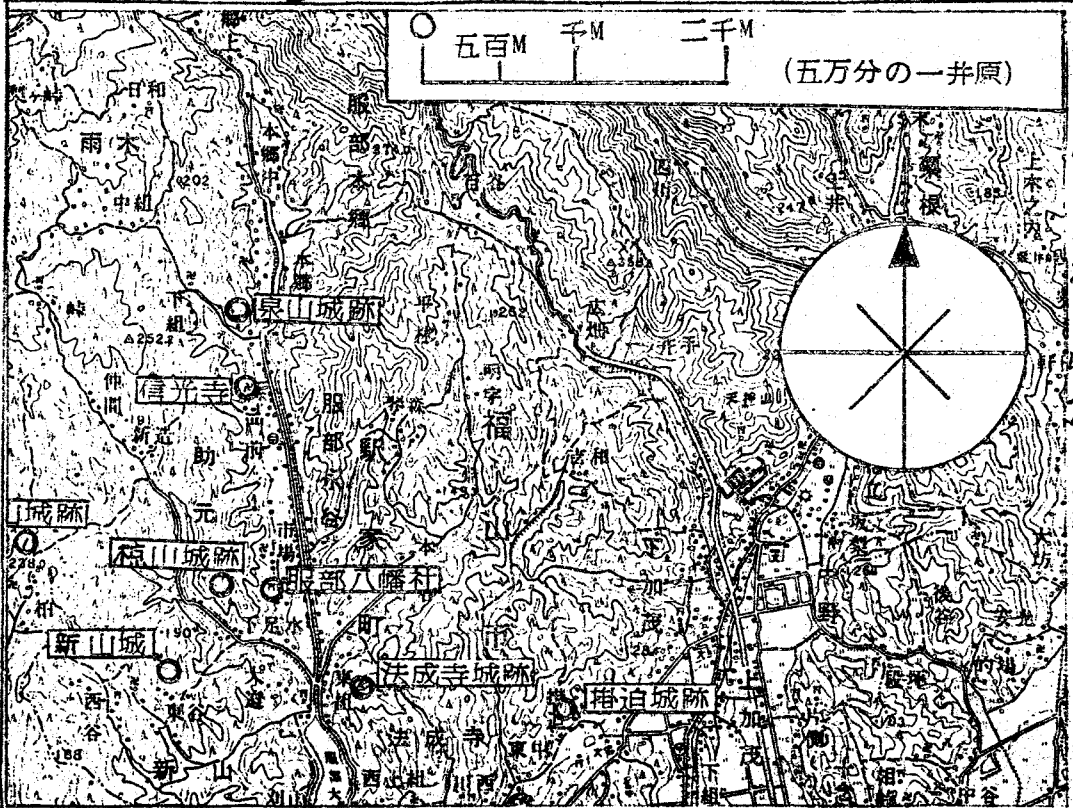
法成寺城は大嶮城とも呼ばれ、福山市駅家町法成寺と同服部永谷の地境上標高一二七・五Mの山頂附近に存在するといわれています。下図参照。但し、未調査の為詳細は不明で、土取工事によって破壊されたとも云われています。

文献上では「備後古城記」西法成寺村 桑原縫殿助

桑原家臣田和増川

森田夕門

とあります。桑原氏は中世服部永谷にある棕山城(下図参照)を本拠とした土豪です。地図を見てもただこればかりか、おそれる場所が桑原縫殿助は棕山城桑原氏の一族で、その



法成寺城(大嶮城)付近図

出城(天盛城)に配された者でしょう。猶、桑原氏は備後最大の豪族亀山城宮氏の有力な被官人だったようです。為念。

解答 (城郭研究部会)

♡ (会員近況)
新しい家庭を持たれる方。

岡内譲二様 (靜岡県在住)

富美子様

お子さん 万善

去年の十二月六日に御結婚なされました。

松本信二様 (大阪府在住)

理恵様

三月十一日に御結婚なされま

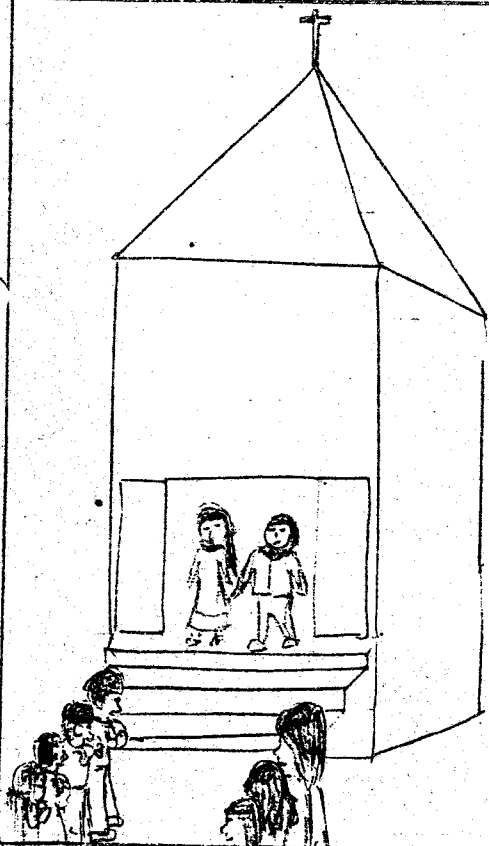
山口哲二様

妻 名前ないしよ?
三月三十日に御結婚なされま

吉田和隆様
村上純子様

見送り時間は午後六時三十分。

会から五人結婚なされ、新しき門
出を祝します。



1984年1月29日

(11) 備陽史探訪

☆ ◎行事予定 !

二月

第十五回談話会

十一日(五) 建国記念日

午後二時~四時

市民会館 第四会議室

備後中世史講座

テーマ

備後中世の武士団について

田口義之 (城郭研究部会長)

午後一時から総会を開きます。

例会 山城闊歩

桜山氏と宮氏の拠城を訪ねて

二十六日(日) 第一集合地 福山

改札口前 午前八時 第二集合地

吉備津神社前 午前九時十五

分地

行程

福山駅 8:15 電車 8:50 新市 9:06 バス 9:08 吉備

津神社 徒歩約1.5km 鷲尾山城 徒歩約2km 桜山城 徒歩約3km 中興寺 徒歩約2.5km 電壽山城 徒歩約2km 新市

駅 距離計約5km 比高計約540M

昼食は桜山城の予定 健脚向。

会費 会員五百円 非会員八百円

昼食持参 電車 バス代各ます。

申込は、二月まで。雨天中止

三月

例会

樽崎氏遺跡と今高野山

二十五日(日) 集合場所 福山駅裏

キヤッスルホテル前 午前八時

行程

福山 8:30 樽崎氏遺跡 1:00 下津屋

14:00 徳寺古墳 15:00 福山 16:30 福寺址 14:00

貸切りバス使用、昼食は今高野山

会員二千三百円 非会員二千五百円

昼食持参 雨天決行

① 戦国時代、府中市 西陵下勢力を持

カ、樽崎氏の本拠。朝日ニ子山城の
大井戸、石垣、礎石。城下に菩提寺の
玉禅寺跡、宝篋印塔、仁王像と墓石
のみ残る。

③ 景史跡。高野山領大田庄の經堂
にあたる。真言宗の寺院。背後に
上原右衛門大夫元将の居城。今高
野山城の跡。

④ 景史跡。中世の寺跡で石造七重
塔がある。

⑤ 景史跡。臨濟宗康徳寺の門前に
ある円墳で内部に横穴式石室が有
り、東側に白鳳時代の寺址。
申込は三月二十日までに。

第十六回談話会
十一日(日)午後
市民会館第四会議室

〈寄蔵図書〉

本山四号S58.11月

本山町郷土史会

◎ 編集後記 ◎

今回より会報を二ヶ月に一回と云
うゆっくりペース(あまりゆっくりで
もない)にします。ので次回は三月。
なお、今年も五月五日に親と子の
古墳めぐりを計画してまいりますので、
そろっての御参加をお願いします。
前記した様に三月に五人も結婚な
されまます事をお祝いし、御夫婦の
参加を期待します。
A. 投書、御意見、等の原稿
を、集めています。どしどし送って
下さい。

(送り) 種本実 川口町 398 の 13